

## (2) 長野県における古代瓦出土地点（中南信編）

柴田 洋孝

### 1 はじめに

2017年度、長野市小島・柳原遺跡群の発掘調査において古代瓦が1点出土したことを契機に、前号では、小島・柳原遺跡群が所在する長野市を含め、千曲川流域を中心とした東北信地域の古代瓦出土地点をまとめた。結果として、43地点55遺跡（表採含む）を数えることとなり、古代信濃の6郡（水内郡・高井郡・埴科郡・更級郡・小県郡・佐久郡）に広く分布している状況が判明した。

本年度は中南信地域を対象とし、残りの古代4郡（安曇郡・筑摩郡・諏訪郡・伊那郡）における古代瓦の出土地点をまとめ、昨年度の研究成果と併せて長野県内の概観を述べていきたい。なお、昨年度の内容について一部修正と追加報告があるため、第1図中に掲載した。

### 2 瓦出土地点

#### 寺院跡・官衙跡

寺院跡として推定されている地点では、安曇野市明科廃寺・松本市大村廃寺・飯田市上川路廃寺などが挙げられる。その中でも、遺構に伴って瓦が多く出土しているのは安曇野市の明科廃寺であるが、市街地での発掘調査のため、調査範囲が限られ伽藍の全体像を把握するには至っていない。

明科廃寺から出土する軒丸瓦の文様は、飛鳥時代にみられる素弁系統の蓮華文であることや、供給元である桜坂古窯跡の出土遺物との検討から7世紀第3四半期頃の創建とみられ、長野県最古の寺院とも称されている。また、明科廃寺と同文様の軒丸瓦が、隣国の飛騨国寿楽寺廃寺と甲斐国天狗沢瓦窯跡から出土しており、その伝播ルートが研究されている<sup>1)</sup>。大村廃寺は大村遺跡内で石敷きの遺構や礎石の栗石とみられる集石が確認されているが、明確に寺院として捉えるまでには至っていない。しかし、1,000点を超える出土量や軒丸瓦・軒平瓦・鴟尾の破片があることなどから、瓦葺の屋根を有する建築物が存在していたことは確かであろう。

瓦が葺かれていたのは寺院に限定されていたわけではなく、官衙（役所）にも使用されていた。

長野県内で官衙として瓦が使用されていたと確認されているのは飯田市恒川官衙遺跡である。なかでも、出土した軒平瓦は文様が全くない特徴的なものであるが、実は郡を超えた小県郡信濃国分寺跡からも同様のものが出土しており、信濃国分寺の造営に伊那郡が支援・協力を行ったことを示す事例ではないかと考えられている。加えて、伊那郡を示すと考えられる「伊」が刻書された文字瓦も信濃国分寺跡から出土していることなども、その証拠の一つである可能性が高い。

#### 集落跡

中南信地域で集落内から瓦が出土している事例は複数あるが、点数は数点に留まっており、明確にその遺跡内で寺院などとの関連があったと判断できるものは少ない。

安曇野市上ノ山窯跡からほど近い松本市平瀬遺跡では、瓦の出土は少ないものの、平安時代末～中世初頭にかけて「法住寺」という寺院が周辺に存在していたことが記録から判明しており、その関連性が窺われている<sup>2)</sup>。発掘調査によって明確に遺構は確認されていないが、瓦以外に埴仏の型とみられる石製品も出土しており、寺院に関連する集落と考えられる。

飯田市毛賀御射山遺跡では竪穴建物跡からまとまって軒丸瓦や瓦塔とみられる破片が出土している点や複数の掘立柱建物跡の検出、「オコンドウ」とよばれる地名などから集落内における寺院が想定されている<sup>3)</sup>。また、同市井戸下遺跡では平安期の水田耕作土中から複数の古代瓦が出土したという少々変わった事例も報告されている。

#### 生産遺跡

生産遺跡として供給先との関係性が明確に確認できているのは安曇野市桜坂古窯跡で、その供給先は前述した明科廃寺である。長野県内で供給先と生産遺跡の関係がはっきりしているのは、信濃国分寺跡と信濃国分寺瓦窯跡ぐらいであり、地方寺院の事例としては貴重である。安曇野市上ノ山窯跡からは、軒丸瓦の陶製の瓦当范が1点出土しており、当時の瓦製作に関する貴重な資料である

が、残念ながら周辺遺跡からこの范を使用した製品は確認されていない。供給先は信濃国府や筑摩郡衙があったとされている大村遺跡周辺の可能性が考えられる。なお、上ノ山窯跡は瓦陶兼業窯であり、瓦の出土量が少ないことから、要求に応じて作られていたことが指摘されている。余談であるが、瓦を焼成していない塩尻市菖蒲沢窯跡では、8世紀中～後半に比定される日本最大級の瓦塔（高さ231cm）が出土しており、仏教遺物としてその供給先が注目される場所である。

飯田市金井原瓦窯跡は、恒川遺跡群に隣接する8世紀中頃の窯跡で、その供給先の詳細は判明していないが、古瀬遺跡内や石行遺跡では、類似品が出土している。また、出土する軒丸瓦の文様は、簡略化された高句麗様式とされ、愛知県西三河の北野廃寺出土の軒丸瓦と類似していることも指摘されている。

### 3 瓦にみる東北信と中南信の地域差

中南信地域の古代瓦出土地点は26地点33遺跡と、東北信地域に比べると格段に少なくなる。また、諏訪郡域においては現在までに古代瓦の出土が確認されていないなど、寺院が造営された痕跡が確認できなかった郡さえある。藤森栄一氏もこの点に注目し、諏訪神社の影響を挙げている。実は、信濃国は他国に比べて古代寺院や瓦の出土地点が比較的少ないとされており、土地の条件など様々な要因が考えられるが、この点について倉澤正幸氏は信濃において瓦葺建物が発達しなかった理由に、中部高地の冬の気候が関連していると指摘しており、降雪や冬季の冷込みが厳しい信濃では、瓦が耐えられずに破損してしまったのではないかとした<sup>4)</sup>。実際、安曇郡・筑摩郡が所在している松本平は標高600～800m、伊那郡が所在する伊那谷は標高400～600mと高地であり、降雪量は少ないものの寒暖差が激しい地域であるため、瓦の使用が普及しなかった可能性がある。

伊那郡は恒川官衙遺跡および関連する遺跡周辺に古代瓦の出土がみられるが、郡全体でみれば瓦の出土は少なく密集している。飯田地方は古墳文化が栄えた場所であり、有力氏族が薄葬令（646年）以降、寺院造営へと舵を切ってもよいものと考えられるが、実際はそうならなかったとみられ

る。ただし、上川路廃寺周辺は前方後円墳が密集するなど、有力氏族と寺院の関係を色濃く反映している事例と考えられる<sup>5)</sup>。中南信地域の文様瓦は確認例が少ないが、明科廃寺のように飛騨・甲斐国と同文様の瓦である一方、金井原瓦窯跡出土の瓦は三河国最古（7世紀）ともいわれる北野廃寺と共通した文様の瓦が出土するなど、他地域とのつながりを示す例が多い。東北信地域は瓦当文様の形態が中南信地域と大きく異なるが、こちらは北陸方面との文化的なつながりが強い地盤であったためとみられ、実際に雨宮廃寺出土の軒丸瓦は新潟県栗原遺跡出土の軒丸瓦と同文様である。

東北信地域で興味深いのは元善町遺跡出土の湖東式軒丸瓦や、上石川廃寺出土の軒丸瓦が近江国に原型を求めることができる点である。上原真人氏はこの点について、「信濃国と近江国の近縁性は律令確立前夜の様相を反映し、国という行政単位が確立するより以前に、評（郡）単位が行政として重要であった。中央と各地を結ぶ基幹官道も単なる交通網ではなく、文化政策を施行する上での行政単位として重要な意義があった」と指摘している<sup>6)</sup>。

### 4 おわりに

2か年にわたって長野県内の古代瓦出土地点を追ってきたが、瓦一つをとってみても文化圏の違いを確認できることがわかった。上原氏の指摘するように郡などの行政単位で他国とのつながりを持っていた可能性もあり、古代瓦は単なる仏教遺物ではなく、地域のつながりと文化の伝播を示す重要な遺物であることも再認識することができた。今後検討すべき課題として、寺院が造営されるに至った背景や古墳文化との関連である。文化や地盤の違いがどのように寺院に影響したのかは、重要な要素であるため、より広い視点での研究が求められる。

註

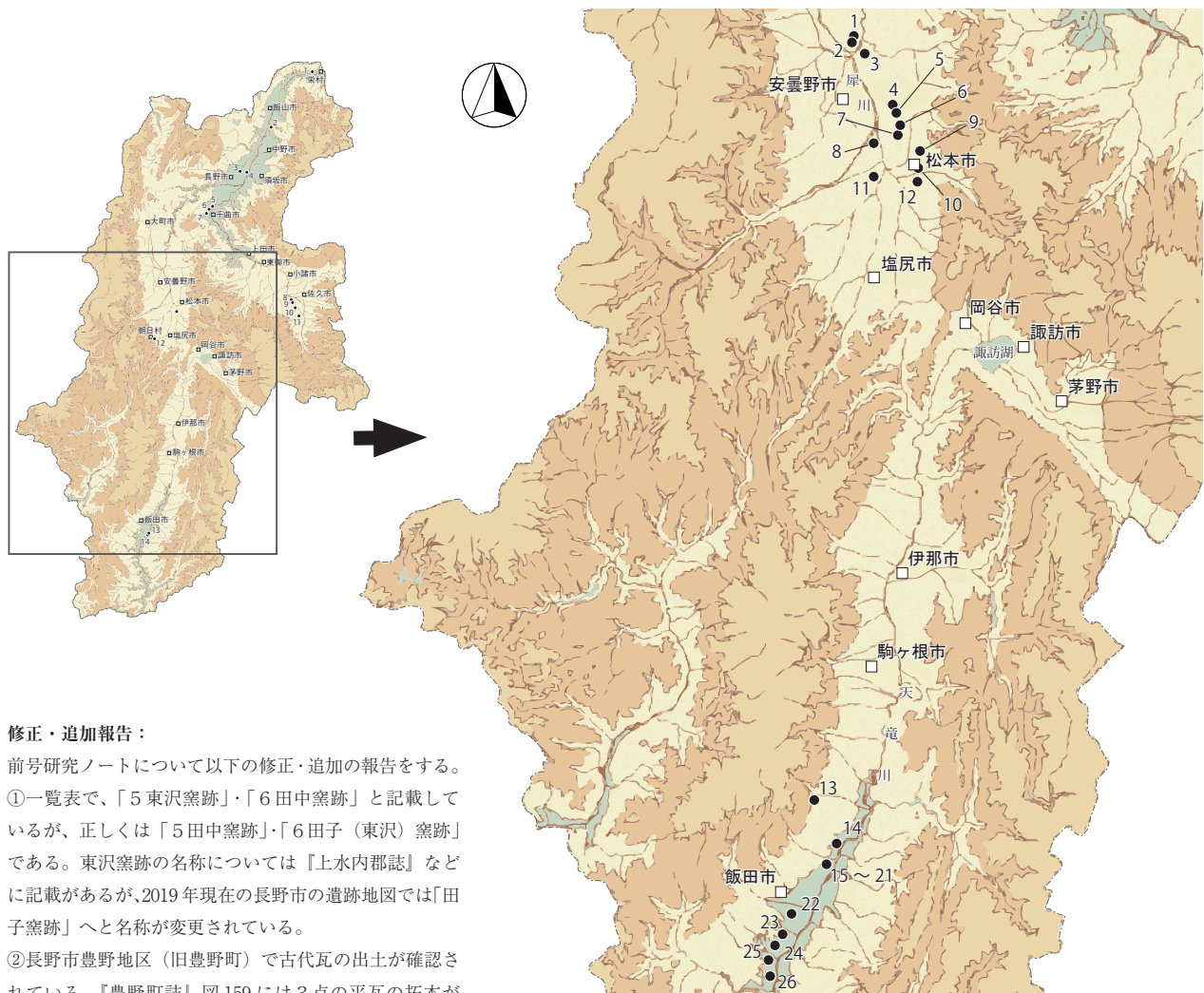
- 1) 三好清超 2018「中部地方の一本づくり・1 枚づくり」『8世紀の瓦づくりⅣ』奈良文化財研究所
- 2) 松本市教育委員会 2000『平瀬遺跡Ⅱ』
- 3) 飯田市教育委員会 1978『毛賀御射山遺跡』
- 4) 倉澤正幸 2018『信濃地域の東大寺式軒丸瓦』『古代瓦研究Ⅳ』奈良文化財研究所
- 5) 市澤英利 2015「上川路廃寺と伊那郡衙考」『飯田市美術館研究紀要』25
- 6) 上原真人 2008「善光寺平に瓦葺建物が建った - 善光寺出土瓦をめぐって -」長野市金鶏会館公開講座発表資料



参考文献

- 1 明科町史編纂会 1984『明科町史 上巻』
- 2 明科町教育委員会 1998『桜坂古窯址』
- 3 明科町教育委員会 2003『明科廃寺址』集
- 4 安曇野市教育委員会 2017『明科遺跡群明科廃寺4』
- 5 飯島哲也 1997「科野の飛鳥・白鳳期寺院」『古代寺院の出現とその背景』埋蔵文化財研究会
- 6 飯田市教育委員会 1978『毛賀御射山遺跡』
- 7 飯田市教育委員会 1996『上野遺跡・金井原瓦窯址』
- 8 飯田市教育委員会 1996『恒川遺跡群』
- 9 飯田市教育委員会 1999『新井原・石行遺跡』
- 10 飯田市教育委員会 2001『井戸下遺跡』
- 11 飯田市教育委員会 2002『上の坊遺跡』
- 12 飯田市教育委員会 2003『北本城々跡 北本城古墳』
- 13 飯田市教育委員会 2003『辻前遺跡』
- 14 飯田市教育委員会 2005『前林遺跡（付 前林廃寺跡）』
- 15 飯田市教育委員会 2007『恒川遺跡群 官衙編』
- 16 飯田市教育委員会 2013『恒川遺跡群 総括編』
- 17 市村威人 1959「長野県下伊那地方出土の古瓦について」『信濃』11-1 信濃史学会
- 18 市澤英利 2015「上川路廃寺と伊那郡衙考」『飯田市美術館研究紀要』25
- 19 伊那市史編纂委員会 1984『伊那市史 歴史編』
- 20 上原真人 2008「善光寺平に瓦葺建物があった - 善光寺出土瓦をめぐって -」長野市金鶏会館公開講座発表資料
- 21 岡田正彦 2004「考古学からみた飯伊地方の古代仏教文化」『飯田市美術館研究紀要』14
- 22 岡田正彦 2005「飯田・下伊那地方の窯業の歴史」『飯田市美術館研究紀要』15
- 23 河西清光 1965「長野県松本市田溝中の沢古窯址の調査」『信濃』17-9 信濃史学会
- 24 倉澤正幸 2012「出土軒瓦から考察した信濃の寺院」『信濃』64 - 10 信濃史学会

- 25 倉澤正幸 2016「長野県の瓦窯構造」『中部地方の瓦窯の構造-瓦窯の構造研究6-』
- 26 倉澤正幸 2018「信濃地域の東大寺式軒瓦」『古代瓦研究Ⅷ』奈良文化財研究所
- 27 下諏訪町誌増補版編纂審議会 1985『増補版 下諏訪町誌（上巻）』
- 28 遮那真周・遮那藤麻呂 1984「伊那谷南部における初期仏教文化とその歴史的背景」『長野県考古学会誌』49
- 29 豊科町教育委員会 1987『菖蒲平窯跡群』
- 30 豊科町教育委員会 1999『筑摩東山 上ノ山・菖蒲平窯跡群発掘調査報告』
- 31 豊野町誌刊行委員会 2001『豊野町誌5』
- 32 下伊那誌編纂会 1991『下伊那郡史 第一巻』
- 33 長野県史刊行会 1983『長野県史考古資料編全1巻（3）主要遺跡（中信・南信）』
- 34 長野県史刊行会 1988『長野県史 考古資料編 全1巻（4）遺構・遺物』
- 35 長野県埋蔵文化財センター 2018『年報34』
- 36 東筑摩郡・松本市・塩尻市誌郷土資料編纂会 1973『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌第二巻 歴史上』
- 37 廣田和穂 1996「長野県における古墳時代末～奈良時代初頭の様相」『飛鳥・白鳳時代の諸問題I』国際古代史シンポジウム実行委員会
- 38 松本市 1996『松本市史 第二巻歴史編I 原始・古代・中世』
- 39 松本市教育委員会 1981『あがた遺跡』
- 40 松本市教育委員会 1984『推定信濃国府 第2次調査報告』
- 41 松本市教育委員会 1987『松本市島立北栗遺跡 条理的遺構』
- 42 松本市教育委員会 1989『大村遺跡』
- 43 松本市教育委員会 1992『宮の前遺跡』
- 44 松本市教育委員会 1993『古屋敷遺跡 前田遺跡』
- 45 松本市教育委員会 1993『二反田遺跡 岡田町遺跡』
- 46 松本市教育委員会 1994『松本市平田本郷遺跡』
- 47 松本市教育委員会 2000『平瀬遺跡II』
- 48 松本市教育委員会 2005『大村遺跡VI』
- 49 松本市教育委員会 2014『県町遺跡』
- 50 三郷村誌刊行会 2006『三郷村誌II 第二巻 歴史編上』
- 51 三好清超 2018「中部地方の一本づくり・1枚づくり」『8世紀の瓦づくりⅦ』奈良文化財研究所



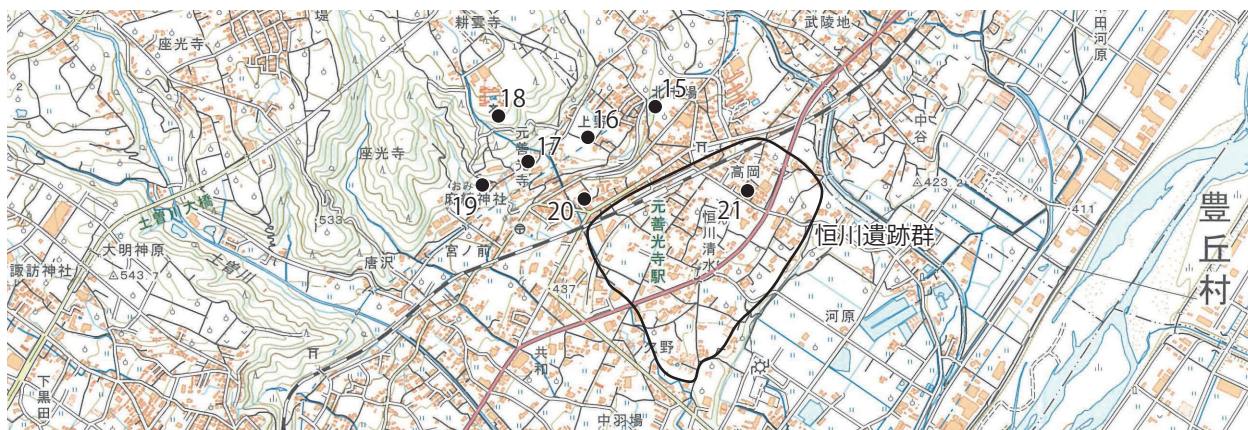
第1図 長野県中南信地域古代瓦出土地点

修正・追加報告：

前号研究ノートについて以下の修正・追加の報告をする。

①一覧表で、「5 東沢窯跡」・「6 田中窯跡」と記載しているが、正しくは「5 田中窯跡」・「6 田子（東沢）窯跡」である。東沢窯跡の名称については『上水内郡誌』などに記載があるが、2019年現在の長野市の遺跡地図では「田子窯跡」へと名称が変更されている。

②長野市豊野地区（旧豊野町）で古代瓦の出土が確認されている。『豊野町誌』図159には3点の平瓦の拓本が掲載されているが、出土地点の詳細は不明である。



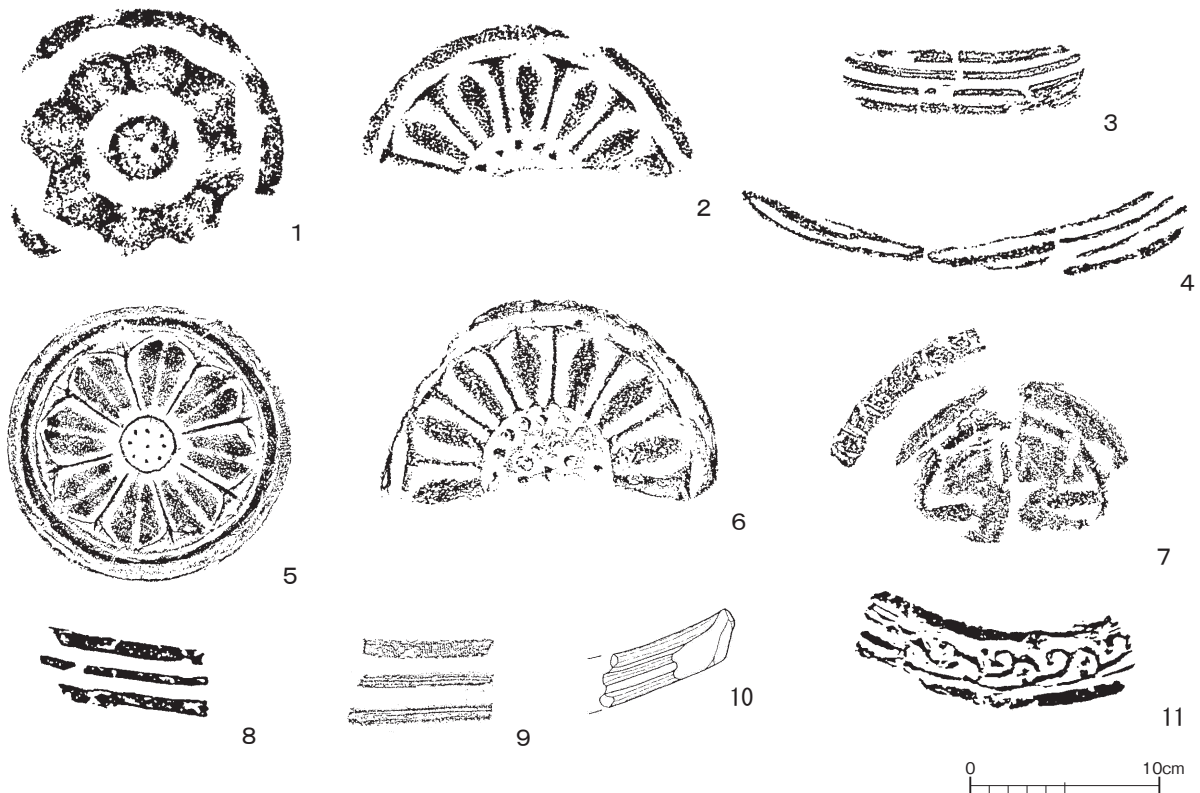
第2図 飯田市座光寺周辺 (国土地理院発行「飯田」1:25,000)

長野県中南信地域古代瓦出土地点一覧表

番号	遺跡名	所在地	詳細				備考	文献
			時代	種別	主な遺構	主な遺物		
1	宮原遺跡	安曇野市明科	奈・平	窯跡	—	土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦		1・33
2	桜坂古窯跡	安曇野市明科	古・奈	窯跡	窯跡灰原・堅穴建物跡・墓壇	須恵器・軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦		1・2
3	明科廃寺	安曇野市明科	古～平	寺院	掘立柱建物跡・土坑・柱穴	土師器・須恵器・瓦類 (軒平・軒丸・丸・平)・瓦塔・打製石器ほか		1・3 4・24 28・33 34・36 38・50
4	菖蒲平窯跡群	安曇野市豊科	平	窯跡	登窯・炭窯・堅穴建物ほか	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦・鉄製品		29・30
	上ノ山窯跡	安曇野市豊科	奈・平	窯跡	登窯・炭窯・土器焼成坑・堅穴建物跡・土坑ほか	土師器・須恵器・硯・瓦類 (軒丸・丸・平)・瓦当・鉄器ほか	陶製瓦当范	30
5	中の沢窯跡	松本市岡田	奈・平	窯跡	登窯	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦	灰原から瓦出土	23・34 36
6	岡田町遺跡	松本市岡田	縄～平	集落	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土師器焼成土坑・溝ほか	土師器・須恵器・硯・瓦類 (軒丸・丸・平)・羽口・金属製品・石器ほか		45
7	宮の前遺跡	松本市岡田	奈・平	集落	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・硯・瓦類 (軒丸・丸・平)・羽口・金属製品ほか		43
8	平瀬遺跡	松本市島内	古～中	集落	堅穴建物跡・土坑・溝・石列ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・磁器・丸瓦・平瓦・石製品ほか	埴輪型転用石器	47
9	古屋敷遺跡	松本市大村	弥～平	集落	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑ほか	弥生土器・土師器・須恵器・平瓦・金属製品ほか	八稜鏡	43
	大村遺跡 (大村廃寺)	松本市大村	縄～中	集落 (寺院?)	堅穴建物跡・土坑・溝・流路・石敷遺構・礎石群ほか	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・磁器・硯・瓦類 (軒丸・軒平・丸・平・鵲尾)・金属製品ほか	礎石栗石?	24・25 33・34 37・38 42・48
10	県町遺跡	松本市丸の内	古～中	集落	堅穴建物跡・土坑・流路ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・平瓦・金属製品ほか		49
	あがた遺跡 (あがたの森公園)	松本市県	弥～平	集落	堅穴建物跡・石敷遺構	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・丸瓦・金属製品・石器ほか	釵子	39
	あがた遺跡 (県ヶ丘高校)	松本市県	奈・平?	集落?	—	土師器・須恵器・灰釉陶器・平瓦?	表採平瓦1枚作り?	39
11	島立北栗遺跡	松本市島立	古～平	集落	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・柵列・石列ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・平瓦・金属製品ほか		41
12	松本工業高校遺跡	松本市筑摩	弥～平	集落	—	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・丸瓦		40
13	池平遺跡	松川町大島	—	—	—	布目瓦		21・28
14	古瀬 (道寿) 遺跡	高森町下市田	奈	集落	堅穴建物跡	土師器・須恵器・硯・軒丸瓦・丸瓦・平瓦	カマド芯材に転用飯田市金井原窯跡と同范か	7・17 21



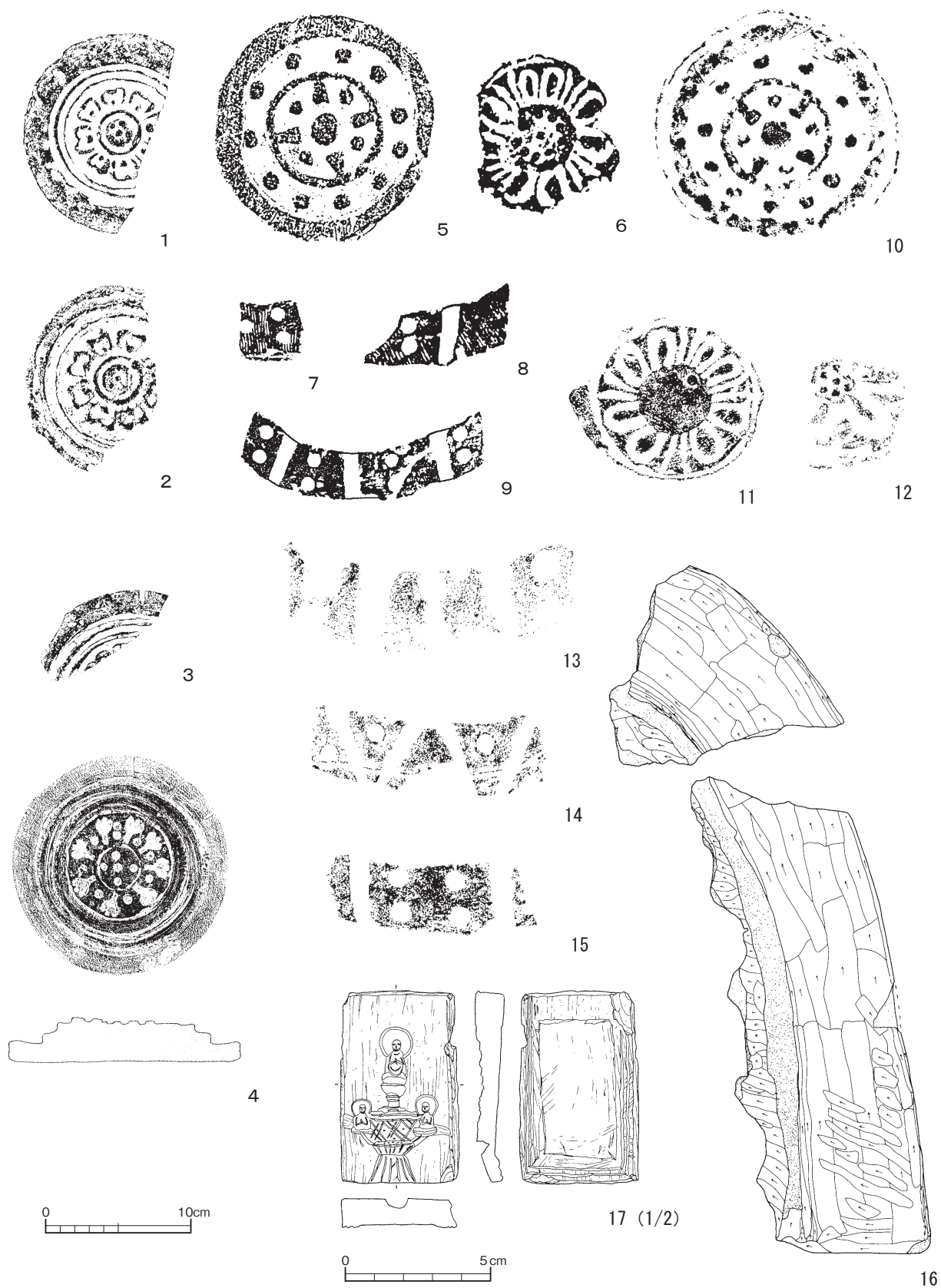
15	石行遺跡	飯田市座光寺	縄～中	集落	堅穴建物跡・土坑・溝・土葬墓・火葬墓ほか	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器平瓦・押出仏	押出仏は銅版を型に当てて打ち出し、鍍金を施す。7 c 末～8 c 初頭か?	7・9 21
16	上野遺跡 金井原瓦窯跡	飯田市座光寺	奈	窯跡	登窯・工房跡	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦		7・17 21・22 28
17	如来寺境内	飯田市座光寺	—	寺院・窯?	—	丸瓦	元善光寺	7・17 28
18	北本城跡	飯田市座光寺	中	城跡	堀・土塁・建物跡ほか	丸瓦・陶磁器・古銭	金井原窯跡の製品か	12・21
19	座光寺棚田遺跡	飯田市座光寺	奈	—	—	布目瓦		21
20	古瀬平遺跡	飯田市座光寺	—	寺院・窯?	—	土師器・須恵器・平瓦	平瓦凹面に青海波文	7・21 28
21	恒川官衙遺跡	飯田市座光寺	奈・平	官衙	堅穴建物跡・掘立柱建物跡(正倉・厨ほか)・溝ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・硯・緑釉陶器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平)ほか	銅鏡 恒川遺跡群内	8・15 16・17 21・32
22	毛賀御射山(けがみ さやま)遺跡	飯田市 松尾毛賀	縄～中	集落 寺院?	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦類(軒丸・丸・平)・瓦塔ほか		6・21 24・28 32・34
23	前林廃寺	飯田市桐林	弥・奈	寺院	堅穴建物跡・掘立柱建物跡	須恵器・軒丸瓦・丸瓦・平瓦・瓦塔・		6・14 17・21 24・28 34
	堤洞(つつんぼら) 窯跡	飯田市桐林	平?	窯跡	登窯?	土師器・須恵器・平瓦		17・21 22・28
24	上の坊遺跡	飯田市 上川路	縄～古	集落	方形周溝墓・堅穴建物跡・土坑・溝ほか	縄文土器・土師器・須恵器・丸瓦・平瓦・石製品金属製品ほか		11・21
	開善寺境内遺跡 (上川路廃寺)	飯田市 上川路	縄～近	集落・寺院	川原石積基壇	軒丸瓦・丸瓦・平瓦・鵲尾	周辺に4基の前方後円墳。被葬者と関連か?	17・18 21・24 28・34
25	辻前遺跡	飯田市川路	古～近	集落	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝ほか	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・丸瓦・	銅鏡	13・21
26	井戸下遺跡	飯田市川路	弥～中	集落	堅穴建物跡・水田・溝ほか	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・丸瓦・平瓦・陶磁器ほか		10・21



第3図 長野県中南信地域出土古代瓦(1)

1～4: 桜坂古窯跡(文2) 5～11: 明科廃寺(文3・31)

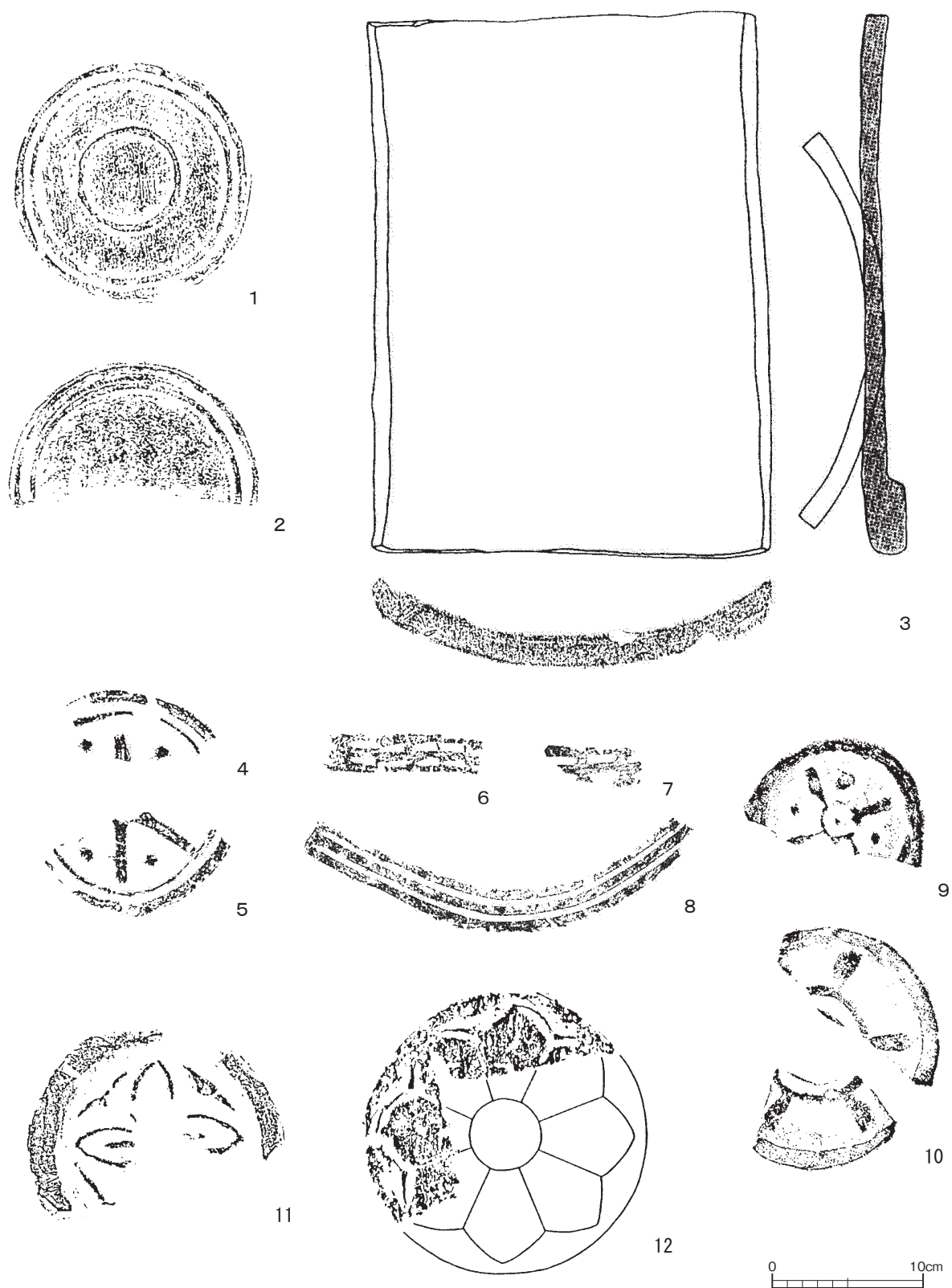
※文: 参考文献



第4図 長野県中南信地域出土古代瓦（2）・仏教関連遺物

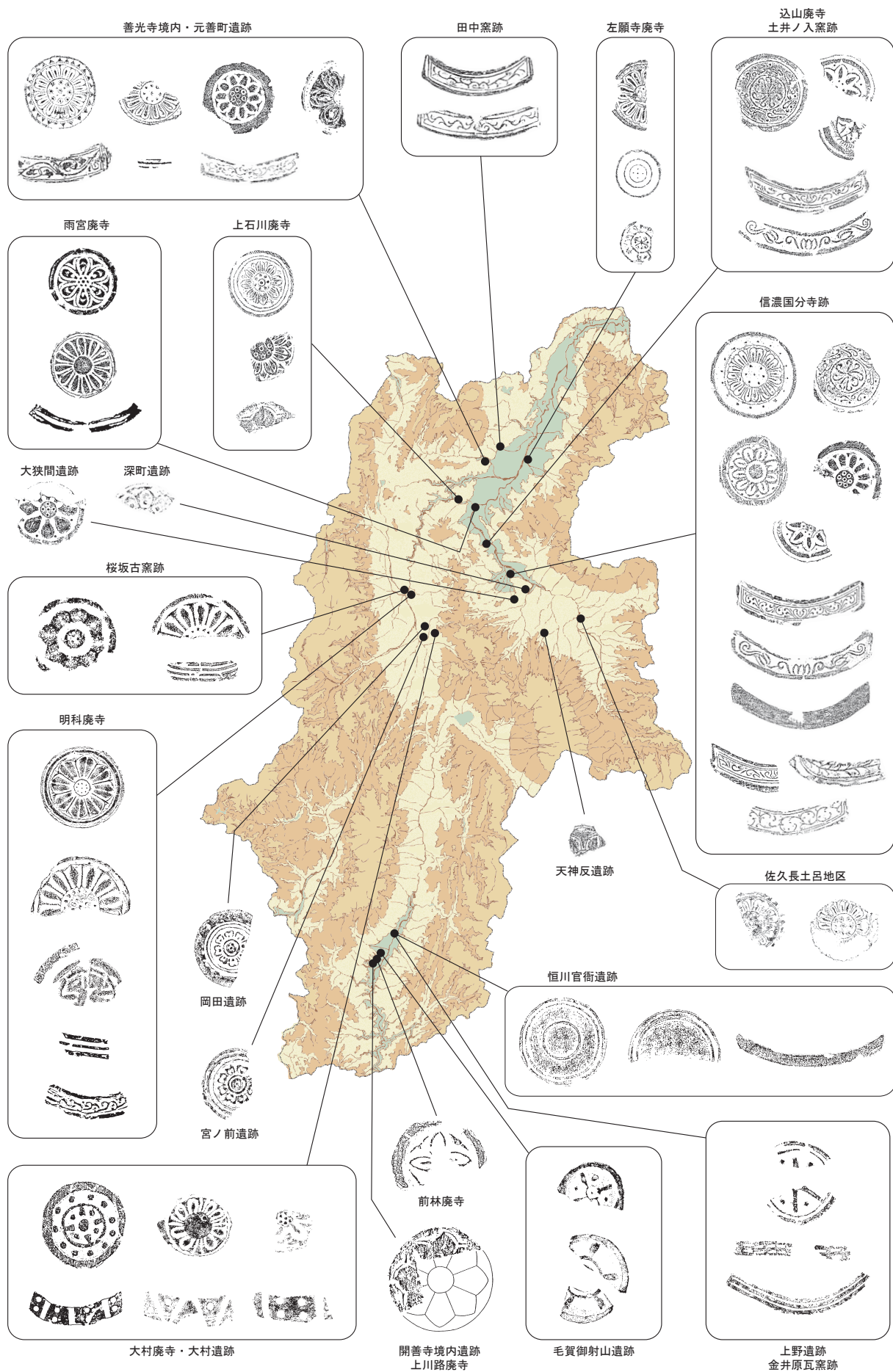
1：岡田町遺跡（文 45） 2：宮の前遺跡（文 47） 3・4：上ノ山窯跡（文 30） 5～9：大村廃寺（文 39）  
9：松本市大村堂田表採（文 39） 11～16：大村遺跡（文 47） 17：平瀬遺跡（文 47）





第5図 長野県中南信域出土古代瓦（3）

1～3：恒川官衙遺跡（文8・16） 4～8：上野遺跡・金井原瓦窯跡（文7） 9・10：毛賀御射山遺跡（文6・34）  
11：前林廃寺（文34） 12：開善寺境内遺跡〔上川路廃寺〕（文34）



第6図 長野県文様瓦出土地点